

科目番号	科 目 名	特別演習 I		担当教員：高嶺 司	
博国地 019	科目名（英語）	Special Seminar I		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、研究テーマを設定し、研究の目的、独創性、学術的貢献、及び具体的な研究方法やタイムラインについて検討する。					
2. 到達目標					
研究テーマ、研究目的、独創性、研究方法などを明確にした博士論文プロポーザルを作成することで、博士研究を本格的にスタートさせていくための準備を行う。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス：博士論文研究の意義について 第2週 博士課程院生としての研究姿勢や研究倫理の確認 第3週 学術的背景と研究テーマの検討 第4週 学術的背景と研究テーマの検討 第5週 学術的背景と研究テーマの検討 第6週 研究の目的、独創性、学術的意義の検討 第7週 研究の目的、独創性、学術的意義の検討 第8週 研究の目的、独創性、学術的意義の検討 第9週 研究の目的、独創性、学術的意義の検討 第10週 研究方法とタイムラインの検討 第11週 研究方法とタイムラインの検討 第12週 研究方法とタイムラインの検討 第13週 博士論文プロポーザルの作成 第14週 博士論文プロポーザルの作成 第15週 博士論文プロポーザルの完成・提出					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各課題について事前に整理した上で、批判的な検討をしながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文プロポーザルの完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科 目 名	特別演習 I		担当教員：嘉納英明	
博国地 019	科目名（英語）	Special Seminar I		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。研究分野、テーマに関する先行研究や学会の研究動向に関する報告及び議論を通して、学生が主体的に研究テーマを設定し、その研究の意義を明らかにし、研究領域や研究方法を確定する。					
2. 到達目標					
特別演習 I では、研究テーマに関する先行研究や関連する周辺領域の研究を網羅的に収集し研究史を整理し、加えて研究テーマの妥当性や研究の意義を検証する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 研究課題の検討（1） 第2週 研究課題の検討（2） 第3週 研究方法の検討（1） 第4週 研究方法の検討（2） 第5週 研究課題の検討（3） 第6週 研究課題の検討（4） 第7週 研究課題の検討（5） 第8週 研究課題の検討（6） 第9週 研究領域の検討（1） 第10週 研究領域の検討（2） 第11週 研究領域の検討（3） 第12週 先行研究の解説（1） 第13週 先行研究の解説（2） 第14週 研究史の解説（1） 第15週 研究史の解説（2）					
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。 【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。先行研究・関連研究を精読し、問題となる箇所を整理して授業に臨むこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。学校や地域の教育研究の場合、学校現場や地域の関連団体・機関とのネットワークづくりは重要である。日々、関係性構築の努力を惜しまないで欲しい。					
6. 成績評価の方法					
研究課題・研究テーマの設定にかかる報告・議論をみて総合的に評価する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。					
7. 履修の条件					
学校や地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 I		担当教員：小番 達	
博国地 019	科目名（英語）	Special Seminar I		E-mail：t.kotsugai@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	研 504	火・木曜日 4 限
1. 授業の概要					
日本中世文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。テーマに関する先行研究を把握した上で問題点を抽出し、研究テーマの設定、研究方法等について具体的に検討する。					
2. 到達目標					
・関連する研究史を網羅的、体系的に収集、整理した上で問題点を抽出し、研究範囲を絞り込む。 ・テーマを確定し、研究の目的・意義・方法の具体化と研究計画の策定を行う。 ・テーマに即した作品研究の基本的方法を検討する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	ガイダンス（研究意義、研究倫理、発表日程等について）				
第2週	研究文献目録の作成①				
第3週	研究文献目録の作成②				
第4週	先行研究の成果と問題点の把握①				
第5週	先行研究の成果と問題点の把握②				
第6週	先行研究の成果と問題点の把握③				
第7週	先行研究の成果と問題点の把握④				
第8週	テーマ設定と研究構想の策定①				
第9週	テーマ設定と研究構想の策定②				
第10週	テーマ設定と研究構想の策定③				
第11週	テーマ設定と研究構想の策定④				
第12週	テーマに即した作品研究①				
第13週	テーマに即した作品研究②				
第14週	テーマに即した作品研究③				
第15週	作品研究のまとめ（論文化）				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で課題に関連する文献・資（史）料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて資料作成等の事前準備を確実に行うこと。					
6. 成績評価の方法					
発表・論文の内容：70 点					
授業への取り組み（課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッション）：30 点					
7. 履修の条件					
古典文学の読解に必要な一定の基礎力を有すること。					
8. その他					
講義の進捗状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 I		担当教員：小嶋 洋輔	
博国地 019	科目名（英語）	Special Seminar I		E-mail:y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	415	講義前後の一時間程度
1. 授業の概要					
日本近代文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。テーマ設定の妥当性、研究方法の検討、先行研究の整理などについて検討する。博士論文のための作品・事例の分析研究の基本的な方法について検討する。					
2. 到達目標					
・テーマを確定し、学位論文の作成に向けて計画を立案・決定する。 ・研究方法についての認識を確かなものにする。 ・テーマに関する先行研究を洗い出し、研究文献目録を作成する。参考文献の読み込みを始める。 ・テーマに即して作品の解釈研究に取り組む。					
本演習は国際文化研究科 DP と関連している。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	博士論文作成についての基本的な心構えについて意見の交換を行い、テーマの確定につなげる。				
第2週	研究テーマ追求のための方法論について意見交換を行う。研究方法についての認識を確かなものにする。				
第3週	研究テーマに関する先行研究の探索について指針の提示を行う。				
第4週	先行研究の探索についてのとりまとめと研究文献一覧の作成について指導する①。				
第5週	先行研究の探索についてのとりまとめと研究文献一覧の作成について指導する②。				
第6週	研究テーマに即した作品・事例研究①				
第7週	研究テーマに即した作品・事例研究②				
第8週	研究テーマに即した作品・事例研究③				
第9週	研究テーマに即した作品・事例研究④				
第10週	研究テーマに即した作品・事例研究⑤				
第11週	研究テーマに即した作品・事例研究⑥				
第12週	研究テーマに即した作品・事例研究⑦				
第13週	作品・事例研究の結果のとりまとめ（論文作成）①				
第14週	作品・事例研究の結果のとりまとめ（論文作成）②				
第15週	作品・事例研究の結果のとりまとめ（論文作成）③				
4. テキスト					
【テキスト】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。 【参考文献】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解すると共に、自己の方法論の構築に役立てる。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。 授業への取り組み：40%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：60% 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。					
7. 履修の条件					

特にないが、事前事後学習をしっかり行うこと。
8. その他
講義の進行状況によって授業計画を変更するところがある。

科目番号	科 目 名	特別演習 I		担当教員：坪井 祐司	
博国地 019	科目名（英語）	Special Seminar I		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2	509	火 3、木 2
1. 授業の概要					
博士論文の作成に向けた研究指導を行う。教員との議論を通じて、研究テーマを設定する。先行研究の探索の方法を習得し、収集を進める。そのうえで、収集した先行研究の読解を通じて研究史を把握し、自らの研究の意義を明確にする。					
2. 到達目標					
博士論文の研究テーマを決定する。 テーマに関する研究史を整理し、研究の意義を明確にする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス					
第2週 研究テーマに関する議論					
第3週 文献探索の方法					
第4週 文献リストの作成 (1)					
第5週 文献リストの作成 (2)					
第6週 先行研究についての発表 (1)					
第7週 先行研究についての発表 (2)					
第8週 先行研究についての発表 (3)					
第9週 先行研究についての発表 (4)					
第10週 先行研究についての発表 (5)					
第11週 先行研究についての発表 (6)					
第12週 先行研究についての発表 (7)					
第13週 先行研究についての発表 (8)					
第14週 研究テーマの設定					
第15週 まとめ					
4. テキスト					
参考文献：関連する文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の授業は教員との議論を通じて進めていくので、発表資料の準備が求められる。					
6. 成績評価の方法					
- 発表の内容：70% - 授業への取り組み：30% 成績評価（優・良・可・不可）は、全学の成績評価基準に従うものとする。 到達目標と評価方法との対応については、イントロダクションで解説する。 生成 AI について：生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張としてレポートなどに使用することは不正行為とみなす。					
7. 履修の条件					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 II		担当教員：高嶺 司	
博国地 020	科目名（英語）	Special Seminar II		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	503	演習終了後または 予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、先行研究の批判的検討と整理を行い、研究の中心となる理論的（分析）アプローチの構築を試みる。					
2. 到達目標					
先行研究の批判的検討と理論的（分析）アプローチの構築を行うことで、研究方法の妥当性を確認し、予見される問題点を明らかにする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 先行研究の批判的検討 第2週 先行研究の批判的検討 第3週 先行研究の批判的検討 第4週 先行研究の批判的検討 第5週 先行研究の批判的検討 第6週 先行研究の整理 第7週 先行研究の整理 第8週 先行研究のまとめ 第9週 理論的（分析）アプローチの検討 第10週 理論的（分析）アプローチの検討 第11週 理論的（分析）アプローチの検討 第12週 理論的（分析）アプローチの検討 第13週 理論的（分析）アプローチの構築 第14週 理論的（分析）アプローチの構築 第15週 先行研究、理論的アプローチ、研究方法についての妥当性や問題点の確認					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各課題について事前に整理した上で、批判的検討を行いながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと先行研究の検討及び理論的アプローチの構築に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演習 I」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅱ		担当教員：嘉納英明	
博国地 020	科目名（英語）	Special Seminar		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。研究テーマを決定するために、国内外の先行研究と現在の研究動向を理解するために文献探索を行う。あわせて、研究テーマの妥当性や研究の意義を検証する。特に、序章の中の「研究史」の作成について集中的に指導する。					
2. 到達目標					
研究テーマに相当する先行研究（1次資料も含めて）を収集し、その先行研究を整理し、研究テーマの妥当性を検証しつつ研究史の作成に着手する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	先行研究の批判的検討	報告・討論（1）			
第2週	先行研究の批判的検討	報告・討論（2）			
第3週	先行研究の批判的検討	報告・討論（3）			
第4週	先行研究の批判的検討	報告・討論（4）			
第5週	先行研究の批判的検討	報告・討論（5）			
第6週	先行研究の批判的検討	報告・討論（6）			
第7週	先行研究の批判的検討	報告・討論（7）			
第8週	関連研究の解説				
第9週	関連する先行研究の解説（1）				
第10週	関連する先行研究の解説（2）				
第11週	関連する先行研究の解説（3）				
第12週	研究史の作成（1）				
第13週	研究史の作成（2）				
第14週	研究史の作成（3）				
第15週	研究テーマと研究方法の再検討				
4. テキスト					
【テキスト】 特になし。 【参考文献】 学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。授業での議論を踏まえて、多くの先行研究・関連周辺研究を精読し、まとめておくこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。学校や地域の教育研究の場合、学校現場や地域の関連団体・機関とのネットワークづくりは重要である。日々、関係性構築の努力を惜しまないで欲しい。					
6. 成績評価の方法					
1次資料を含む先行研究等の収集と理解、加えて研究テーマに応じた問題点の整理についての報告と議論をみて、総合的に評価する。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 II		担当教員：小番 達	
博国地 x x x	科目名 (英語)	Special Seminar II		E-mail : t.kotsugai@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	研 504	火・木曜日 4 限
1. 授業の概要					
日本中世文学に関する研究テーマに即して先行研究の検討を引き続き行うとともに関連する他の文学作品や資料等を精読し、作品研究の深化を図る。					
2. 到達目標					
・研究史の把握と問題点の抽出を進める。 ・上代や中古、中世の文学作品や歴史資料、思想関連資料等の精読を進める。 ・研究テーマに関わる作品研究の深化を実現する。					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週 「特別演習 I」の成果と課題の確認、本授業の取り組みの確認 第 2 週 テーマに関わる作品研究① 第 3 週 テーマに関わる作品研究② 第 4 週 テーマに関わる作品研究③ 第 5 週 テーマに関わる作品研究④ 第 6 週 作品研究①～④に関する先行研究の検討① 第 7 週 作品研究①～④に関する先行研究の検討② 第 8 週 テーマに関わる作品研究⑤ 第 9 週 テーマに関わる作品研究⑥ 第 10 週 テーマに関わる作品研究⑦ 第 11 週 テーマに関わる作品研究⑧ 第 12 週 作品研究⑤～⑧に関する先行研究の検討① 第 13 週 作品研究⑤～⑧に関する先行研究の検討② 第 14 週 作品研究のまとめ（論文化）① 第 15 週 作品研究のまとめ（論文化）②					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で課題に関連する文献・資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて資料作成等の事前準備を確実に行うこと。関連する文学作品や資（史）料を積極的に読み進めること。					
6. 成績評価の方法					
発表・論文の内容：70 点 授業への取り組み（課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッション）：30 点					
7. 履修の条件					
「特別演習 I」を履修した者					
8. その他					
講義の進捗状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅱ		担当教員：小嶋洋輔	
博国地 020	科目名（英語）	Special Seminar Ⅱ		E-mail:y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	415	講義前後の一時間程度
1. 授業の概要					
日本近代文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。特別演習Ⅰに引き続いて、先行研究の検討が主たる作業となる。また研究テーマ周辺についても幅広い目配りを行えるようにする。					
2. 到達目標					
・先行研究論文の読み込みを進める。 ・研究テーマに関わる作品および事例分析の精度を上げる。 ・日本近代文学のみならず言語学・哲学・社会学・民俗学・宗教学的領域についても文献の読み込みを進める。 本演習は国際文化研究科 DP と連関している。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学期の成果の確認と今学期の目標について確認する。 第2週 テーマに即した作品・事例研究① 第3週 テーマに即した作品・事例研究② 第4週 テーマに即した作品・事例研究③ 第5週 作品研究①～③に関する先行研究の検討① 第6週 作品研究①～③に関する先行研究の検討② 第7週 テーマに即した作品・事例研究④ 第8週 テーマに即した作品・事例研究⑤ 第9週 テーマに即した作品・事例研究⑥ 第10週 テーマに即した作品・事例研究⑦ 第11週 作品研究④～⑦に関する先行研究の検討① 第12週 作品研究④～⑦に関する先行研究の検討② 第13週 作品研究の結果のとりまとめ（論文作成）①（草稿検討） 第14週 作品研究の結果のとりまとめ（論文完成）②（草稿検討と完成） 第15週 研究計画一年次のとりまとめ。達成と課題の検討					
4. テキスト					
【テキスト】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。 【参考文献】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解すると共に、自己の方法論の構築に役立てる。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。 授業への取り組み：40%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：60% 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。					
7. 履修の条件					

特にないが、事前事後学習をしっかり行うこと。
8. その他
講義の進行状況によって授業計画を変更するところがある。

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅱ		担当教員：坪井 祐司	
博国地 020	科目名（英語）	Special Seminar Ⅱ		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2	509	火3、木2
1. 授業の概要					
博士論文の作成に向けた研究指導を行う。論文テーマに関する研究史を整理するとともに、先行研究をふまえて自らの研究の方法論を決定する。そのうえで、教員との議論を通じて、論文の構成に関して構想を固め、作成のスケジュールを決定する。					
2. 到達目標					
博士論文について、研究の方法論を決定する。 論文の構成を決定する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス 第2週 研究史の整理 (1) 第3週 研究史の整理 (2) 第4週 研究史の整理 (3) 第5週 研究史の整理 (4) 第6週 研究史の整理 (5) 第7週 方法論の検討 (1) 第8週 方法論の検討 (2) 第9週 方法論の検討 (3) 第10週 方法論の検討 (4) 第11週 論文の構成の検討 (1) 第12週 論文の構成の検討 (2) 第13週 論文の構成の検討 (3) 第14週 論文執筆のスケジュールの検討 第15週 まとめ					
4. テキスト					
参考文献：関連する文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の授業は教員との議論を通じて進めていくので、発表資料の準備が求められる。					
6. 成績評価の方法					
・発表の内容：70% ・授業への取り組み：30% 成績評価（優・良・可・不可）は、全学の成績評価基準に従うものとする。 到達目標と評価方法との対応については、イントロダクションで解説する。 生成 AI について：生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張としてレポートなどに使用することは不正行為とみなす。					
7. 履修の条件					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 III		担当教員：高嶺 司	
博国地 021	科目名（英語）	Special Seminar III		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文執筆に向けて、論文全体の構成、フィールド調査やインタビュー調査の検討、収集文献・資料・データの分析と整理を行う。					
2. 到達目標					
博士論文全体を構成し、フィールド調査やインタビュー調査の検討を行い、収集文献・資料・データの分析と整理することで、論文執筆に向けた準備をする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 博士論文全体の構成の検討 第2週 博士論文全体の構成の検討 第3週 博士論文全体の構成の検討 第4週 博士論文の各章題、各節題の検討 第5週 博士論文の各章題、各節題の草案の完成 第6週 フィールド調査やインタビュー調査の検討 第7週 フィールド調査やインタビュー調査の検討 第8週 フィールド調査やインタビュー調査の検討 第9週 収集文献・資料・データの分析と整理 第10週 収集文献・資料・データの分析と整理 第11週 収集文献・資料・データの分析と整理 第12週 収集文献・資料・データの分析と整理 第13週 収集文献・資料・データの分析と整理 第14週 収集文献・資料・データの分析と整理 第15週 収集文献・資料・データの分析と整理					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各課題について事前に整理した上で、批判的な検討をしながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文全体の構成、フィールド調査やインタビュー調査の検討、収集文献・資料・データの分析に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演習Ⅰ、Ⅱ」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅲ		担当教員：嘉納英明	
博国地 021	科目名（英語）	Special SeminarⅢ		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。学校と地域の教育に関する博士論文執筆に向けて、研究に必要な1次資料・2次資料の文献探索方法を獲得する。					
2. 到達目標					
研究テーマに関連した1次資料・2次資料それに視覚的資料を、学生独自の視点で収集できるように指導する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 1次資料・2次資料の探索方法の指導（1） 第2週 1次資料・2次資料の探索方法の指導（2） 第3週 文献リストの作成（1） 第4週 文献リストの作成（2） 第5週 文献リストの作成（3） 第6週 文献リストの作成（4） 第7週 文献リストの作成（5） 第8週 資料の読解と分析（1） 第9週 資料の読解と分析（2） 第10週 資料の読解と分析（3） 第11週 資料の読解と分析（4） 第12週 資料の読解と分析（5） 第13週 資料の読解と分析（6） 第14週 資料の読解と分析結果の整理（1） 第15週 資料の読解と分析結果の整理（2）					
4. テキスト					
【テキスト】特になし。					
【参考文献】学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
収集した資料については、内容を事前に精読しかつ整理して授業に臨むこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。					
6. 成績評価の方法					
収集した資料の状況と整理具合を評価し、資料の読解・分析状況も評価対象とする。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅲ		担当教員：小番 達	
博国地 021	科目名（英語）	Special SeminarⅢ		E-mail：t.kotsugai@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	研 504	火・木曜日 4 限
1. 授業の概要					
日本中世文学に関する博士論文の全体構想を検討する。作品研究の深化を図り、先行研究の検証や関連作品・資料（史）料の読解も継続する。博士論文の構成に従って執筆指導を行う。					
2. 到達目標					
・博士論文の構想を策定し、執筆を進める。 ・研究テーマに関わる作品研究の深化を実現する。 ・研究史の把握と問題点の抽出を進める。 ・関連する文学作品や歴史資料、思想関連資料等の精読を進める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 「特別演習Ⅱ」の成果と課題の確認、本授業の取り組みの確認 第2週 博士論文の全体構想の検討① 第3週 博士論文の全体構想の検討② 第4週 博士論文の全体構想の検討③ 第5週 テーマに関わる作品研究① 第6週 テーマに関わる作品研究② 第7週 テーマに関わる作品研究③ 第8週 作品研究①～③に関する先行研究の検討 第9週 テーマに関わる作品研究④ 第10週 テーマに関わる作品研究⑤ 第11週 作品研究④・⑤に関する先行研究の検討 第12週 作品研究のまとめ（論文化）① 第13週 作品研究のまとめ（論文化）② 第14週 博士論文の執筆内容の検討と論文構成の検証① 第15週 博士論文の執筆内容の検討と論文構成の検証②					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で課題に関連する文献・資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて資料作成等の事前準備を確実に行うこと。関連する文学作品や資料（史）料を積極的に読み進めること。					
6. 成績評価の方法					
発表・論文の内容：70 点					
授業への取り組み（課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッション）：30 点					
7. 履修の条件					
「特別演習Ⅱ」を履修した者					
8. その他					
講義の進捗状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅲ		担当教員：小嶋 洋輔	
博国地 021	科目名（英語）	Special SeminarⅢ		Email: y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	415	講義前後の一時間程度
1. 授業の概要					
日本近代文学に関する博士論文のテーマに即した研究指導を行う。そのうえで対象作品の範囲の拡大を目指す。研究テーマ周辺の作品についても幅広い目配りを行えるようにする。先行研究の探索と検討を継続して行う。なお、学位論文の構想に基づき、各章・各節の具体的執筆指導を行う。					
2. 到達目標					
・先行研究論文の読み込みと検討を進める。 ・研究テーマに関わる作品分析を行い、必要に応じて対象を拡大する。 ・関連分野についても文献の読み込みを進める。 ・学位論文の構想を完成し執筆を進める。 本演習は、国際文化研究科 DP と関連している。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学年度の成果の確認と今学年および今学期の目標について確認する。 第2週 学位論文の全体構成の検討 第3週 テーマに即した作品・事例研究① 第4週 テーマに即した作品・事例研究② 第5週 作品研究①～②に関する先行研究の検討① 第6週 作品研究①～②に関する先行研究の検討② 第7週 テーマに即した作品・事例研究③ 第8週 テーマに即した作品・事例研究④ 第9週 テーマに即した作品・事例研究⑤ 第10週 作品・事例研究③～⑤に関する先行研究の検討① 第11週 作品・事例研究③～⑤に関する先行研究の検討② 第12週 作品・事例研究の結果のとりまとめ（論文作成）①（草稿検討） 第13週 作品・事例研究の結果のとりまとめ（論文完成）②（草稿検討と完成） 第14週 博士論文の進捗状況の報告と検討。全体構成の検討① 第15週 博士論文の進捗状況の報告と検討。全体構成の検討②					
4. テキスト					
【テキスト】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。 【参考文献】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解するとともに、自己の方法論の構築に役立てる。兎に角「書く」。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。 授業への取り組み：40%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：60% 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。					
7. 履修の条件					

特にないが、事前事後学習をしっかり行うこと。
8. その他
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅲ		担当教員：坪井 祐司	
博国地 021	科目名（英語）	Special SeminarⅢ		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2	509	火 3、木 2
1. 授業の概要					
博士論文の作成に向けた研究指導を行う。教員との議論を通じて、研究計画に基づき、論文作成に必要な資料について検討する。そのうえで、必要な資料や文献の所在等について情報を探索し、収集を進めていく。収集を行った資料は、順次読解を進める。					
2. 到達目標					
研究テーマに関連した資料について把握し、収集の計画を立てる。 論文執筆に必要な資料を収集する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス 第2週 論文に必要な資料の検討 第3週 資料リストの作成（1） 第4週 資料リストの作成（2） 第5週 資料収集計画の立案 第6週 資料の収集（1） 第7週 資料の収集（2） 第8週 資料の収集（3） 第9週 資料の読解と分析（1） 第10週 資料の読解と分析（2） 第11週 資料の読解と分析（3） 第12週 資料の読解と分析（4） 第13週 資料の読解と分析（5） 第14週 資料の読解と分析結果の整理 第15週 まとめ					
4. テキスト					
参考文献：関連する文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の授業は教員との議論を通じて進めていくので、発表資料の準備が求められる。					
6. 成績評価の方法					
・発表の内容：70% ・授業への取り組み：30% 成績評価（優・良・可・不可）は、全学の成績評価基準に従うものとする。 到達目標と評価方法との対応については、イントロダクションで解説する。 生成 AI について：生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張としてレポートなどに使用することは不正行為とみなす。					
7. 履修の条件					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 IV		担当教員：高嶺 司	
博国地 022	科目名（英語）	Special Seminar IV		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	503	演習終了後または 予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の各章の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の構成の再検討と修正を行う。					
2. 到達目標					
各章の執筆を進めつつ、執筆内容のレビューをもとに論文全体の構成を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の執筆と指導					
第2週 各章の執筆と指導					
第3週 各章の執筆と指導					
第4週 各章の執筆と指導					
第5週 各章の執筆と指導					
第6週 各章の執筆と指導					
第7週 各章の執筆と指導					
第8週 各章の執筆と指導					
第9週 各章の執筆と指導					
第10週 各章の執筆と指導					
第11週 各章の執筆と指導					
第12週 各章の執筆と指導					
第13週 各章の執筆と指導					
第14週 論文全体の構成の再検討					
第15週 論文全体の構成の再検討と（必要に応じて）修正					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各章の執筆を進捗させつつ、内容についての批判的な検討をしながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
各章執筆の進捗状況と論文構成の再検討・修正に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅳ		担当教員：嘉納英明	
博国地 022	科目名（英語）	Special SeminarⅣ		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する博士論文の執筆に向けて、研究史の推敲、国内外で収集した資料の分析・検討などを踏まえ、学位論文の構想を検証する。					
2. 到達目標					
学位論文の草稿の完成を目指して準備を進める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 論文の全体的な構想とその検証（1） 第2週 論文の全体的な構想とその検証（2） 第3週 論文の全体的な構想とその検証（3） 第4週 論文の各論の構想とその検証（1） 第5週 論文の各論の構想とその検証（2） 第6週 論文の各論の構想とその検証（3） 第7週 論文の各論の構想とその検証（4） 第8週 論文の各論の構想とその検証（5） 第9週 論文の各論の構想とその検証（6） 第10週 論文の各論の構想とその検証（7） 第11週 論文の各論の構想とその検証（8） 第12週 論文の各論の構想とその検証（9） 第13週 論文の各論の構想とその検証（10） 第14週 論文の各論の構想とその検証（11） 第15週 論文の全体的な構想と各論の構想との整合性の検証					
4. テキスト					
【テキスト】特になし。					
【参考文献】学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
収集した資料については、内容を把握し、熟考して授業に臨むこと。学校や地域の教育についても積極的にフィールドワークを行って欲しい。					
6. 成績評価の方法					
収集した資料の状況と整理及び資料の読解・分析の進捗状況によって判断する。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 IV		担当教員：渡慶次正則	
博国地 022	科目名（英語）	Special Seminar IV		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
収集したデータを先行研究と関連付けながら「調査結果」の章を完成させる。併せて、「文献研究」の章を完成させる。					
2. 到達目標					
・収集したデータをリサーチ・クエスションと対照しながら分析する。 ・「調査結果」の章を完成させる。 ・「文献研究」の章を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週 登録、講義のオリエンテーション、進捗状況の確認 第 2 週 「調査結果」原稿提出と演習内討論 第 3 週 「調査結果」原稿提出と演習内討論 第 4 週 「調査結果」原稿提出と演習内討論 第 5 週 「調査結果」原稿提出と演習内討論 第 6 週 「調査結果」原稿提出と演習内討論 第 7 週 <u>「調査結果」完成草稿提出</u> 第 8 週 「文献研究」原稿提出と演習内討論 第 9 週 「文献研究」原稿提出と演習内討論 第 10 週 「文献研究」原稿提出と演習内討論 第 11 週 「文献研究」原稿提出と演習内討論 第 12 週 「文献研究」原稿提出と演習内討論 第 13 週 「文献研究」原稿提出と演習内討論 第 14 週 <u>「文献研究」完成草稿提出、「学位請求論文執筆計画書」の演習内提出（指導教員へ）</u> 第 15 週 演習 IV のまとめ、今後の調査計画の確認					
4. テキスト					
【参考文献】 Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press. Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press. Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジュメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
「調査結果」章の草稿提出 50 点 「文献研究」章の草稿提出 50 点 合計 100 点 ※生成 AI による情報の偽装を禁止する。但し、データ収集・分析、論文執筆において生成 AI の使用が必要であれば指導教員と事前に相談する。					
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他:					
研究成果の一部を査読付きの学会誌に学術論文として投稿する。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅳ		担当教員：小番 達	
博国地 022	科目名（英語）	Special SeminarⅣ		E-mail：t.kotsugai@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	研 504	火・木曜日 4 限
1. 授業の概要					
日本中世文学に関する博士論文の構成に従って各章の執筆を行い、その内容について検討する。論文全体の構想を再検討して構成の充実を図る。					
2. 到達目標					
- 論文の構想、計画に基づき、確実に執筆を進める。 - 全体の構想を常に意識しながら執筆する（必要に応じて構成を修正する）。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 「特別演習Ⅲ」の課題の確認と執筆計画の確認・再検討 第2週 各章の執筆と検討・指導① 第3週 各章の執筆と検討・指導② 第4週 各章の執筆と検討・指導③ 第5週 各章の執筆と検討・指導④ 第6週 各章の執筆と検討・指導⑤ 第7週 各章の執筆と検討・指導⑥ 第8週 論文全体の構成の再検討① 第9週 各章の執筆と検討・指導⑦ 第10週 各章の執筆と検討・指導⑧ 第11週 各章の執筆と検討・指導⑨ 第12週 各章の執筆と検討・指導⑩ 第13週 各章の執筆と検討・指導⑪ 第14週 各章の執筆と検討・指導⑫ 第15週 論文全体の構成の再検討②					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で課題に関連する文献・資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
論文の執筆を計画的に進めること。検討を要する箇所については関連する先行論文や資（史）料を提示できるように準備しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
計画に従った論文の執筆状況と執筆内容の再検証・修正の妥当性によって総合的に判断する。					
7. 履修の条件					
「特別演習Ⅲ」を履修した者。					
8. その他					
講義の進捗状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅳ		担当教員：小嶋 洋輔	
博国地 022	科目名（英語）	Special Seminar Ⅳ		E-mail: y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	415	講義前後の一時間程度
1. 授業の概要					
日本近代文学に関する博士論文を支える作品・事例の正確な分析ができるように指導するとともに、博士論文の構想に基づき、各章・各節の執筆が進むよう具体的な指導を行う。					
2. 到達目標					
・研究テーマに関わる作品・事例分析の精密化を実現し、対象を拡大する。 ・博士論文の構想に基づいて論文の執筆を進める。 ・個々の論文の有機的なつながりに留意して執筆することができる。 本演習は国際文化研究科 DP と関連している。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 博士論文の全体構成の検討を行い、論文各章の執筆計画を検討・確認する。 第2週 博士論文草稿の検討と指導① 第3週 博士論文草稿の検討と指導② 第4週 博士論文草稿の検討と指導③ 第5週 博士論文草稿の検討と指導④ 第6週 博士論文草稿の検討と指導⑤ 第7週 博士論文草稿の検討と指導⑥ 第8週 博士論文草稿の検討と指導⑦ 第9週 博士論文草稿の検討と指導⑧ 第10週 博士論文草稿の検討と指導⑨ 第11週 博士論文草稿の検討と指導⑩ 第12週 博士論文草稿の検討と指導⑪ 第13週 博士論文草稿の検討と指導⑫ 第14週 学位論文の進捗状況の確認。全体構成の検討① 第15週 学位論文の進捗状況の確認。全体構成の検討②。博士課程二年次の総括。					
4. テキスト					
【テキスト】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。 【参考文献】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
5. 準備学習					
毎回の講義に向けて事前準備を欠かさないこと。特に先行研究論文の読み込みを積極的に行い、テーマに関する研究状況を正確に理解するとともに、自己の方法論の構築に役立てる。兎に角「書く」。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。 授業への取り組み：40%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：60% 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。					
7. 履修の条件					
特にないが、事前事後学習をしっかりと行うこと。					

8. その他

講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅳ		担当教員：坪井 祐司	
博国地 022	科目名（英語）	Special Seminar Ⅳ		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	後期	2	509	火 3、木 2
1. 授業の概要					
博士論文の作成に向けた研究指導を行う。博士論文のための資料の読解、分析を進める。それらの内容を踏まえて、博士論文の構想を再度確認する。構想に基づき、教員との議論を通じて内容を検討しながら、論文の序論の執筆を進めていく。					
2. 到達目標					
博士論文に必要な資料の読解を行う。 論文の序章の草稿を作成する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス 第2週 資料の読解と分析（1） 第3週 資料の読解と分析（2） 第4週 資料の読解と分析（3） 第5週 資料の読解と分析（4） 第6週 資料の読解と分析（5） 第7週 論文の構想をたてる（1） 第8週 論文の構想をたてる（2） 第9週 序章の執筆と検討（1） 第10週 序章の執筆と検討（2） 第11週 序章の執筆と検討（3） 第12週 序章の執筆と検討（4） 第13週 序章の執筆と検討（5） 第14週 序章の執筆と検討（6） 第15週 まとめ					
4. テキスト					
参考文献：関連する文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の授業は教員との議論を通じて進めていくので、発表資料の準備が求められる。					
6. 成績評価の方法					
・発表の内容：70% ・授業への取り組み：30% 成績評価（優・良・可・不可）は、全学の成績評価基準に従うものとする。 到達目標と評価方法との対応については、イントロダクションで解説する。 生成 AI について：生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張としてレポートなどに使用することは不正行為とみなす。					
7. 履修の条件					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習V		担当教員：波照間 永吉	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar V		E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文の完成を目指して、論文指導を中心に授業を進める。特に、論拠となる資料の的確性、論文の実証性、論理構成などに注意して論文執筆がなされるよう指導を行う。					
2. 到達目標					
- 論文各章・節の資料が的確なものであること。 - 実証的な論述で、論理の構成に矛盾がなく、妥当な結論となっている論文の制作。 - 博士論文全体の草稿が出来上がっているようにする。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学期の成果の確認と論文の全体構想および今学期の目標について確認する。					
第2週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討①					
第3週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討②					
第4週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討③					
第5週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討④					
第6週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑤					
第7週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑥					
第8週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑦					
第9週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑧					
第10週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑨					
第11週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑩					
第12週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑪					
第13週 博士論文の執筆と検討。提出資料の妥当性、論文の実証性、論理構成と結論の妥当性の検討⑫					
第14週 博士論文全体の構成の検討。資料編の整理①					
第15週 博士論文全体の構成の検討。資料編の整理②					
4. テキスト					
【テキスト】 外間守善『校注おもろさうし』（2000年・岩波書店）、外間守善・波照間永吉『定本おもろさうし』（2002年・角川書店）、外間守善・波照間永吉『定本琉球国由来記』（1997年・角川書店）、外間守善他『南島歌謡大成 I～V』（1980年・角川書店） 【参考文献】 沖縄古語辞典編集委員会編『沖縄古語大辞典』（1995年・角川書店）、玉城政美『南島歌謡論』（1991年・砂子屋書房）、外間守善『南島文学論』（1994年・角川書店）、波照間永吉『南島祭祀歌謡の研究』（1999年・砂子屋書房） 玉城政美『琉球歌謡論』（2010年・砂子屋書房） 波照間永吉編『鎌倉芳太郎資料集 ノート篇Ⅱ 民俗・宗教』（2006年） ※その他、必要に応じて適宜参考文献の提示を行う。					
5. 準備学習					
毎回の報告に向けて原稿の執筆を精力的に行うこと。原稿の検討に向けて、作品の分析と先行研究の検討については十分な準備を行うこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と博士論文各章・節の原稿の完成度によって評価する。 授業への取り組み：20%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：80%					
7. 履修の条件					
特になし。但し、指導を受けるべき論文の準備が十分に行われていること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅴ		担当教員：赤嶺 守	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar Ⅴ		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文の執筆に取りかかる。各章における表・グラフの作成を行ない、それと論理の展開における整合性を検討する。					
2. 到達目標					
実証性の高い表・グラフの作成を行ない、内容の充足を図る。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第2週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第3週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第4週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第5週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第6週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第7週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第8週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第9週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第10週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第11週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第12週	各章における表・グラフの作成及び論理の展開における整合性の確認				
第13週	研究課題全体の最終検討、指導				
第14週	研究課題全体の最終検討、指導				
第15週	研究課題全体の最終検討、指導				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
事前に、受講者は各章における表・グラフの作成を行い論理の展開における整合性について整理しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組みの深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
表やグラフの作成については、入力情報にミスがないか入念なチェックを試みること。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 V		担当教員：高嶺 司	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar V		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
アジア太平洋地域の国際関係や政治外交に関する博士論文の第2草稿の執筆を行い、執筆内容のレビューをもとに論文全体の理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と修正を行う。					
2. 到達目標					
各章の第2草稿の執筆を進めつつ、執筆内容のレビューをもとに論文全体の理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示の質的向上をはかり完成に近づける。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の第2草稿の執筆と指導 第2週 各章の第2草稿の執筆と指導 第3週 各章の第2草稿の執筆と指導 第4週 各章の第2草稿の執筆と指導 第5週 各章の第2草稿の執筆と指導 第6週 各章の第2草稿の執筆と指導 第7週 各章の第2草稿の執筆と指導 第8週 各章の第2草稿の執筆と指導 第9週 理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認 第10週 理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認 第11週 理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と（必要に応じて）修正 第12週 各章の最終稿の執筆と指導 第13週 各章の最終稿の執筆と指導 第14週 各章の最終稿の執筆と指導 第15週 各章の最終稿の執筆と指導					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
各章の執筆を進捗させつつ、内容についての批判的な検討と修正を試みながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
各章執筆の進捗状況と理論的アプローチ、論旨の展開、証拠・引用文献の提示に関する妥当性の確認と修正に関する完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演 I, II, III, IV」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科 目 名	特別演習V		担当教員：嘉納英明	
博国地 023	科目名（英語）	Special SeminarV		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する学位論文の各論の執筆を検討し、推敲を繰り返しながら完成を目指す。					
2. 到達目標					
学位論文の各論の執筆を継続し、完成を目指す。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各論の執筆指導（1）					
第2週 各論の執筆指導（2）					
第3週 各論の執筆指導（3）					
第4週 各論の執筆指導（4）					
第5週 各論の執筆指導（5）					
第6週 各論の執筆指導（6）					
第7週 各論の執筆指導（7）					
第8週 各論の検討と修正（1）					
第9週 各論の検討と修正（2）					
第10週 各論の検討と修正（3）					
第11週 各論の検討と修正（4）					
第12週 各論の検討と修正（5）					
第13週 各論の検討と修正（6）					
第14週 各論の検討と修正（7）					
第15週 各論の検討と修正（8）					
4. テキスト					
【テキスト】特になし。					
【参考文献】学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回、執筆した原稿、又は修正原稿を準備して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
学位論文の構想と執筆計画に照らし合わせて、執筆の進捗状況及びその整合性を評価する。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 V		担当教員：渡慶次正則	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar V		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
「結論」の章を執筆し、最終的に「博士論文」提出原稿を完成させる。併せて「学位請求論文概要」の提出と「学位請求論文」の提出を行う。					
2. 到達目標					
・「序章」「文献研究」「調査方法」「調査結果」の章を再読し、「結論」の章を完成させる					
・「学位請求論文概要」を提出する					
・目次や引用文献、謝辞などを加えて、博士論文の体裁を整え、最終原稿を提出する。					
・「学位請求論文」の提出を行う。					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	登録、講義のオリエンテーション、「学位請求論文執筆計画書」の最終確認				
第 2 週	「調査方法」章の再読と演習内討論、「学位請求論文執筆計画書」の提出（担当事務部署へ）				
第 3 週	「文献研究」章の再読と演習内討論				
第 4 週	「調査結果」章の再読と演習内討論				
第 5 週	「結論」章の原稿提出と演習内討論				
第 6 週	「結論」章の原稿提出と演習内討論				
第 7 週	「結論」章の最終原稿の提出				
第 8 週	「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 9 週	「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 10 週	「学位請求論文概要」の原稿提出、「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 11 週	「学位請求論文概要」の原稿提出と「博士論文」全体の再読と演習内討論				
第 12 週	「学位請求論文概要」の提出（担当事務部署へ）				
第 13 週	「目次」「表紙」「謝辞」「引用（参考）文献」Bibliography 原稿の提出				
第 14 週	「学位請求論文」最終原稿の提出（指導教員へ）、「博士論文本審査」に係る書類提出の確認				
第 15 週	演習 V のまとめ、今後の調査計画の確認				
4. テキスト					
【参考文献】					
Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press.					
Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press.					
Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
「学位請求論文」最終原稿の提出			100 点		
合計			100 点		
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。但し、データ収集・分析、論文執筆において生成 AI の使用が必要であれば指導教員と事前に相談する。					
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他					
基本的に博士課程の研究を最優先にし、博士課程に相応しい研究活動を行い、自立した研究者を志すこと。					

科目番号	科 目 名	特別演習V		担当教員：小番 達	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar V		E-mail : t.kotsugai@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	研 504	火・木曜日 4 限
1. 授業の概要					
日本中世文学に関する博士論文の執筆内容の検討・指導を行い、完成を目指す。					
2. 到達目標					
論文の実証性、論理展開の整合性や結論の妥当性の備わった内容となっている。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 「特別演習IV」の成果と課題の確認、本学期の計画の確認					
第2週 各章の執筆と検討・指導①					
第3週 各章の執筆と検討・指導②					
第4週 各章の執筆と検討・指導③					
第5週 各章の執筆と検討・指導④					
第6週 各章の執筆と検討・指導⑤					
第7週 論文全体の構成の再検討①					
第8週 各章の執筆と検討・指導⑥					
第9週 各章の執筆と検討・指導⑦					
第10週 各章の執筆と検討・指導⑧					
第11週 各章の執筆と検討・指導⑨					
第12週 各章の執筆と検討・指導⑩					
第13週 各章の執筆と検討・指導⑪					
第14週 論文全体の構成の再検討②					
第15週 文献目録の確認・整理					
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で課題に関連する文献・資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
論文の執筆を計画的に進めること。検討を要する箇所については関連する先行論文や資（史）料等を提示できるよう準備しておくこと。					
6. 成績評価の方法					
計画に従った論文の執筆状況と各章の完成度によって判断する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
講義の進捗状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習V		担当教員：小嶋 洋輔	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar V		E-mail:y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	415	講義前後の1時間程度
1. 授業の概要					
日本近代文学に関する博士論文の完成を目指して、論文指導を中心に授業を進める。特に、論拠となる資料の的確性や論文の実証性の確認を行う。さらに論理構成などに注意して論文執筆がなされるよう指導を行う。					
2. 到達目標					
- 論文各章・節の資料が的確なものとなっている。 - 実証的な論述で、論理の構成に矛盾がなく、妥当な結論となっている論文の制作。 - 博士論文全体の草稿の完成。 本演習は国際文化研究科 DP と関連している。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 前学期の成果の確認と論文の全体構想および今学期の目標について確認する。 第2週 博士論文の執筆と検討① 第3週 博士論文の執筆と検討② 第4週 博士論文の執筆と検討③ 第5週 博士論文の執筆と検討④ 第6週 博士論文の執筆と検討⑤ 第7週 博士論文の執筆と検討⑥ 第8週 博士論文の執筆と検討⑦ 第9週 博士論文の執筆と検討⑧ 第10週 博士論文の執筆と検討⑨ 第11週 博士論文の執筆と検討⑩ 第12週 博士論文の執筆と検討⑪ 第13週 博士論文の執筆と検討⑫ 第14週 博士論文全体の構成の検討① 第15週 博士論文全体の構成の検討②					
4. テキスト					
【テキスト】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。 【参考文献】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
5. 準備学習					
毎回の報告に向けて原稿の執筆を精力的に行うこと。原稿の検討に向けて、作品の分析と先行研究の検討については十分な準備を行うこと。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と作品・事例研究論文の完成度によって総合的に判断する。 授業への取り組み：40%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：60% 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					

講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科 目 名	特別演習 V		担当教員：坪井 祐司	
博国地 023	科目名（英語）	Special Seminar V		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	前期	2	509	火 3、木 2
1. 授業の概要					
博士論文の作成に向けた研究指導を行う。構想にもとづき、博士論文の各章の執筆を進める。草稿をもとに、教員との議論を行い、内容の修正・改善を進めていく。					
2. 到達目標					
博士論文の各章の執筆を進める。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス 第2週 第一章の執筆と検討 (1) 第3週 第一章の執筆と検討 (2) 第4週 第一章の執筆と検討 (3) 第5週 第二章の執筆と検討 (1) 第6週 第二章の執筆と検討 (2) 第7週 第二章の執筆と検討 (3) 第8週 第三章の執筆と検討 (1) 第9週 第三章の執筆と検討 (2) 第10週 第三章の執筆と検討 (3) 第11週 第四章の執筆と検討 (1) 第12週 第四章の執筆と検討 (2) 第13週 第四章の執筆と検討 (3) 第14週 論文全体の構成の再検討 第15週 まとめ					
4. テキスト					
参考文献：関連する文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の授業は教員との議論を通じて進めていくので、発表資料の準備が求められる。					
6. 成績評価の方法					
・発表の内容：70% ・授業への取り組み：30% 成績評価（優・良・可・不可）は、全学の成績評価基準に従うものとする。 到達目標と評価方法との対応については、イントロダクションで解説する。 生成 AI について：生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張としてレポートなどに使用することは不正行為とみなす。					
7. 履修の条件					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習VI		担当教員：波照間 永吉	
博国地 024	科目名（英語）	Special Seminar VI		E-mail:e.hateruma@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	227	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
琉球・沖縄文学に関する博士論文の完成をめざし、その完成度を高めるように取り組む。論文各章が有機的に関連し、緊密な論述関係が構築されているかを点検する。また、微細な誤謬もないよう、精査する。					
2. 到達目標					
・博士論文の全体構想に基づいて論文各章を完成する。 ・論文の各章・節間の関係に留意し、緊密な論述関係をチェックし、論文の完成度を高める。 ・参考文献一覧・資料編の作成などを完了する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	これまでに書き上げてきた原稿を論文の全体構想に従って点検する。				
第2週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正①				
第3週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正②				
第4週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正③				
第5週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正④				
第6週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正⑤				
第7週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正⑥				
第8週	論文各章・節の検討。論文各章・各節の関係に着目した叙述の修正⑦				
第9週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討①				
第10週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討②				
第11週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討③				
第12週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討④				
第13週	博士論文の修筆指導。微細な修正部分の検討⑤				
第14週	博士論文の最終的修筆指導①				
第15週	博士論文の最終的修筆指導②				
4. テキスト					
特に指示しない。必要に応じて適宜、参考文献を提示する。					
5. 準備学習					
授業への取り組み（発表・意見交換）と博士論文各章・節の原稿の完成度によって評価する。その比率は前者 20%、後者 80%の割合とする。					
6. 成績評価の方法					
授業への取り組み（発表・意見交換）と博士論文全体の完成度によって評価する。 授業への取り組み：20%（リサーチ課題に関するディスカッションや論文執筆に関するディスカッションなど） 論文：80%					
7. 履修の条件					
特になし。但し、指導を受けるべき論文の準備が十分に行われていること。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習VI		担当教員：赤嶺 守	
博国地 024	科目名（英語）	Special Seminar VI		E-mail:m.akamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	226	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
中国・琉球関係史に関する博士論文を完成させる。論文の構成、体系的実証性、独創性および学術的意義、研究付録の整理等について、最終的な調整・確認をおこなう。					
2. 到達目標					
独創的な実証性の高い学術的意義を有する論文に仕上げる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第2週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第3週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第4週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第5週	論文各章における体系的実証性の最終確認				
第6週	論文全体の構成及び独創性・学術的意義の最終確認				
第7週	論文全体の構成及び独創性・学術的意義の最終確認				
第8週	論文全体の構成及び独創性・学術的意義の最終確認				
第9週	結論の最終検討・確認				
第10週	研究付録の整理・確認				
第11週	研究付録の整理・確認				
第12週	参考文献の確認及び注釈の最終確認				
第13週	参考文献の確認及び注釈の最終確認				
第14週	博士論文全体の最終調整・校正				
第15週	博士論文全体の最終調整・校正				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で、課題に関連する参考資料を適宜提示する。					
5. 準備学習					
各章における論文構成、体系的実証性、独創性および学術的意義の確認を事前に済ましておくこと。					
6. 成績評価の方法					
研究課題に対する取り組みの深化の程度をみて総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
博士論文執筆の最終段階であることから、慎重且つ綿密なチェックにより論文の完成度を高めること。 講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 VI		担当教員：高嶺 司	
博国地 024	科目名（英語）	Special Seminar VI		E-mail: t.takamine@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	503	演習終了後または予約による
1. 授業の概要					
博士論文の最終稿を継続して執筆するとともに、論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認や序論、結論、脚注、参考文献のチェックを行い、書式統一や文章の細部点検と修正を経て博士論文を完成させ提出する。					
2. 到達目標					
博士論文を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の最終稿の執筆と指導 第2週 各章の最終稿の執筆と指導 第3週 各章の最終稿の執筆と指導 第4週 各章の最終稿の執筆と指導 第5週 論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認 第6週 論文全体のロジック（構成）、独創性、学術的意義についての最終確認 第7週 序論の最終確認と修正 第8週 結論の最終確認と修正 第9週 図表、グラフ、付録、ページ番号等の最終確認と修正 第10週 脚注又は文末脚注の最終確認と修正 第11週 参考文献リストの最終確認と完成 第12週 論文全体の書式統一 第13週 論文全体の書式統一と文章の細部点検と修正 第14週 論文全体の書式統一と文章の細部点検と修正 第15週 博士論文の完成そして提出					
4. テキスト					
参考文献：授業の進捗状況に応じて、関連する参考文献や資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
博士論文最終稿の執筆を進捗させつつ、文章、脚注、参考文献、図表、グラフ等の書式統一と修正に留意しながら授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文の完成度によって総合的に評価する。					
7. 履修の条件					
前提科目の「特別演 I, II, III, IV, V」を履修していること。 国際政治学や国際関係学関連分野についての興味と知識を有すること。					
8. その他					
授業の進行状況によって授業計画を変更することがある。授業は学生の希望によって、対面またはオンラインで実施する。					

科目番号	科 目 名	特別演習VI		担当教員：嘉納英明	
博国地 024	科目名（英語）	Special SeminarVI		Email: kano@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	5 1 0	講義後の1時間程度
1. 授業の概要					
学校と地域の教育に関する学位論文を検討と修正を繰り返しながらまとめていく。					
2. 到達目標					
学位論文の完成を目指す。口頭発表の準備に向けて指導する。					
3. 授業の計画と内容					
第1週	各論の再検討と修正（1）				
第2週	各論の再検討と修正（2）				
第3週	各論の再検討と修正（3）				
第4週	各論の再検討と修正（4）				
第5週	各論の再検討と修正（5）				
第6週	各論の再検討と修正（6）				
第7週	各論の再検討と修正（7）				
第8週	各論の再検討と修正（8）				
第9週	各論の再検討と修正（9）				
第10週	各論の再検討と修正（10）				
第11週	全体の整合性・論証性の検討（1）				
第12週	全体の整合性・論証性の検討（2）				
第13週	全体の整合性・論証性の検討（3）				
第14週	全体の整合性・論証性の検討（4）				
第15週	全体の整合性・論証性の検討（5）				
4. テキスト					
【テキスト】特になし。					
【参考文献】学生の研究課題やテーマ及び研究の進捗状況に応じて適宜、提示する。					
5. 準備学習					
毎回、執筆した原稿、又は修正原稿を準備して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
学位論文の構想と執筆計画に照らし合わせて、執筆の進捗状況及びその完成度を評価する。 ○生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。ただし、教員が指定した条件下や特定の場面での使用を許可する場合もある。					
7. 履修の条件					
学校と地域の教育、又は日本・沖縄の教育に興味を抱いている学生を優先的に受講させる。					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習 VI		担当教員：渡慶次正則	
博国地 024	科目名（英語）	Special Seminar VI		m.tokeshi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	512	講義後 1 時間程度
1. 授業の概要					
博士論文審査と最終試験の準備を行う。併せて、博士論文原稿全体を再読し、リサーチ・クエスチョンとの整合性、論文の細部や一貫性、結束、体裁などを確認する。					
2. 到達目標					
・博士論文審査と最終試験の準備を行う。 ・博士論文審査委員の査読や最終試験の結果を再検討し、博士論文の最終的な修正を行う。 ・博士論文の出版等や卒業要件等を最終確認する。					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週 登録、講義のオリエンテーション					
第 2 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 3 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 4 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 5 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 6 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 7 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 8 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 9 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 10 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 11 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 12 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 13 週 論文全体の論理的整合性、結束、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備					
第 14 週 最終試験を受ける。博士論文審査。					
第 15 週 博士論文出版の準備確認と卒業要件の確認					
4. テキスト					
【参考文献】 Ellis, R. (2004). <i>The study of second language acquisition (2nd)</i> . Hong Kong: Oxford University Press. Bachman, L.F. (1990). <i>Fundamental considerations in language testing</i> . Oxford: Oxford University Press. Richards, J., & Rogers, T.S. (2014). <i>Approaches and methods in language teaching (3rd ed.)</i> . Cambridge: Cambridge University Press.					
5. 準備学習					
演習の 2 日前までに関連文献のレジュメを提出する。					
6. 成績評価の方法					
論文全体の論理的整合性、一貫性、体裁、細部の確認、博士論文審査と最終試験の準備				100 点	
合計				100 点	
※生成 AI による情報の偽装を禁止する。但し、データ収集・分析、論文執筆において生成 AI の使用が必要であれば指導教員と事前に相談する。					
7. 履修の条件					
特になし					
8. その他					
基本的に博士課程の研究を最優先にし、博士課程に相応しい研究活動を行い、自立した研究者を志すこと。					

科目番号	科 目 名	特別演習Ⅵ		担当教員：小番 達	
博国地 x x x	科目名（英語）	Special SeminarⅥ		E-mail : t.kotsugai@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	研 504	火・木曜日 4 限
1. 授業の概要					
日本中世文学に関する博士論文を完成させる。各章の実証性・整合性・妥当性の再検討と論文全体が体系的に構成されているかの点検を行う。					
2. 到達目標					
博士論文を完成させる。					
3. 授業の計画と内容					
第 1 週	各章の再検討と修正①				
第 2 週	各章の再検討と修正②				
第 3 週	各章の再検討と修正③				
第 4 週	各章の再検討と修正④				
第 5 週	各章の再検討と修正⑤				
第 6 週	各章の再検討と修正⑥				
第 7 週	論文全体の構成の点検①				
第 8 週	論文全体の構成の点検②				
第 9 週	論文全体の構成の点検③				
第 10 週	結論の最終確認				
第 11 週	本文の校正①				
第 12 週	本文の校正②				
第 13 週	本文の校正③				
第 14 週	脚注・文献目録の最終確認				
第 15 週	博士論文全体の最終確認				
4. テキスト					
参考文献：授業を進める中で課題に関連する文献・資料を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
再検討が必要な箇所については確実に検討・修正して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
課題に対する取り組みと博士論文の完成度によって評価する。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					
講義の進捗状況によって授業計画を変更することがある。					

科目番号	科 目 名	特別演習VI		担当教員：小嶋 洋輔	
博国地 024	科目名（英語）	Special Seminar VI		E-mail:y.kojima@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	415	講義前後の1時間程度
1. 授業の概要					
日本近代文学に関する学位論文の執筆・補訂と指導					
2. 到達目標					
学位論文を完成させる。 本演習は国際文化研究科 DP と関連している。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 各章の再検討と補訂①					
第2週 各章の再検討と補訂②					
第3週 各章の再検討と補訂③					
第4週 各章の再検討と補訂④					
第5週 各章の再検討と補訂⑤					
第6週 各章の再検討と補訂⑥					
第7週 各章の再検討と補訂⑦					
第8週 各章の再検討と補訂⑧					
第9週 各章の再検討と補訂⑨					
第10週 各章の再検討と補訂⑩					
第11週 各章の再検討と補訂⑪					
第12週 最終的な総点検①					
第13週 最終的な総点検②					
第14週 最終的な総点検③					
第15週 学位論文の完成と総括					
4. テキスト					
【テキスト】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
【参考文献】 研究テーマに合わせて変動する。そのため適宜指示する。					
5. 準備学習					
各章を再検討し補訂したものを必ず用意して授業に臨むこと。					
6. 成績評価の方法					
進捗状況（10%） 学位論文の完成度（90%） 本授業の成績評価における秀・優・良・可・不可の意味は、全学の成績評価基準に従う。 到達目標と評価方法との対応については、オリエンテーションで解説する。 生成 AI による情報の偽装を禁止する。学生が生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張として偽装し、それを課題レポートなどに使用することは不正行為とみなす。学生自身の考えや知識の表現としての学術的価値を損なうためである。					
7. 履修の条件					
特になし。					
8. その他					

講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。

科目番号	科 目 名	特別演習VI		担当教員：坪井 祐司	
博国地 024	科目名（英語）	Special SeminarVI		E-mail:y.tsuboi@meio-u.ac.jp	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	3	後期	2	509	火 3、木 2
1. 授業の概要					
博士論文の作成に向けた研究指導を行う。教員との議論を通じて、博士論文の内容の検討と修正を繰り返し、論文の完成へとつなげる。そして、博士論文の口頭試問の準備を進める。					
2. 到達目標					
博士論文を完成させる。 論文の口頭試問の準備を行う。					
3. 授業の計画と内容					
第1週 ガイダンス 第2週 各章の再検討と修正 (1) 第3週 各章の再検討と修正 (2) 第4週 各章の再検討と修正 (3) 第5週 各章の再検討と修正 (4) 第6週 各章の再検討と修正 (5) 第7週 各章の再検討と修正 (6) 第8週 結論の執筆と検討 (1) 第9週 結論の執筆と検討 (2) 第10週 結論の執筆と検討 (3) 第11週 論文全体の再検討と修正 (1) 第12週 論文全体の再検討と修正 (2) 第13週 論文全体の再検討と修正 (3) 第14週 口頭試問の準備 (1) 第15週 口頭試問の準備 (2)					
4. テキスト					
参考文献：関連する文献を適宜紹介する。					
5. 準備学習					
毎回の授業は教員との議論を通じて進めていくので、発表資料の準備が求められる。					
6. 成績評価の方法					
・発表の内容：70% ・授業への取り組み：30% 成績評価（優・良・可・不可）は、全学の成績評価基準に従うものとする。 到達目標と評価方法との対応については、イントロダクションで解説する。 生成 AI について：生成 AI によって出力された情報を自分の意見や主張としてレポートなどに使用することは不正行為とみなす。					
7. 履修の条件					
8. その他					
講義の進行状況によって授業計画を変更することがある。					